

## 第十編 土地、鑛山、森林、漁業、狩獵、農事

### ●産牛馬組合法 (三十三年二月法律二十號)

- 第一條 牛又ハ馬ノ生産ニ従事スル者ハ本法ニ依リ組合ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 組合ハ牛馬ノ改良及組合員ノ共同利益ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第三條 組合ハ郡市以上ノ區域ニ依リ其ノ地區ヲ定ムヘシ但特別ノ事由アルトキハ此限ニ在ラス
- 第四條 組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ地區内ニ於テ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ牛ノ生産ニ従事スル者及馬ノ生産ニ従事スル者相合シテ組合ヲ設置セムトスルトキハ各別ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス
- 第三條但書ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ認可ヲ與フヘシ
- 第五條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ地方又ハ地區ヲ指定シテ組合ノ設置ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ組合ヲシテ種牛馬ノ供給若ハ牛馬ノ系統登錄ヲ爲サシメ又ハ驛場ヲ設ケシムルコトヲ得
- 第七條 本法ニ規定ナキモノニ付テハ重要輸出品同業組合法務四條但書ヲ除クノ外之ヲ本法ニ準用ス但シ同法第六條乃至第八條、第十一條及第十六條農商務大臣ノ職務ハ地方長官之ヲ行ヒ第九條第十三條及第十五條農商務大臣ノ職務ハ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

附則

第八條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十編 産牛馬組合法

第九條 重要輸出品同業組合法ノ規定ニ依リ設置シタル産牛馬組合ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

第十條 本法施行以前ニ地方長官ノ認可ヲ經テ設置シタル産牛馬組合ニシテ本法ノ規定ニ牴觸セサルモノハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

●産業組合法 (三十三年三月法律第三十四號)

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ

- 一 組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信用組合)
- 二 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セシメテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合)
- 三 産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シテ之ヲ組合員ニ賣却スルコト(購買組合)
- 四 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト

(生産組合)

前項第一號ニ掲ケタル事業ハ他ノ各號ニ掲ケタル事業ト相兼メルコトヲ得ス

第二條 産業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス

無限責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員力連帶無限ノ責任ヲ負擔シ、有限責任組合ニ在リテハ組合員ノ全員力其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ、保證責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員力其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第三條 産業組合ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條 産業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スヘキ文字ヲ用ウヘシ

産業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條 産業組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 産業合ニハ所得税及營業稅ヲ課セス

産業組合ニシテ登記ヲ受クルトキハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムヘシ但シ組合員名簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第二章 設立

第七條 産業組合ハ七人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條 組合ノ設立者ハ定款ヲ作り之ヲ主タル事務所所在地ノ地方長官ニ差出シ設立ノ許可ヲ請フヘシ

第九條 定款ニハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

一 目的

二 名稱

三 組織

四 事務所

- 五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
- 六 第一回拂込ノ金額
- 七 剩餘金及損失分配ニ關スル規定
- 八 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
- 九 組合員タル資格ニ關スル規定
- 十 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 十一 組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定
- 十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由  
信用組合ノ區域ハ市町村ノ區域内ニ於テ之ヲ定メ定款中ニ記載スヘシ但シ特別ノ事由アルトキ  
ハ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得
- 第十條 産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス
- 第十一條 出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ
- 第十二條 組合力其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲  
サシムヘシ
- 第十三條 前條ノ拂込ミアリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘ  
シ
- 第十四條 登記スヘキ事項左ノ加シ

一 第九條第一號乃至第五號第十二號ニ掲ケタル事項

- 二 設立許可ノ年月日
  - 三 理事及監事ノ氏名、住所
- 前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテ  
ハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第十五條 組合ハ其ノ設立ノ登記ノ申請ト共ニ組合員名簿ヲ其ノ主タル事務所所在地ノ裁判所ニ  
差出スヘシ
- 組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 各組合員ノ氏名、住所
  - 二 各組合員ノ出資口數
  - 三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
  - 四 出資各口ノ取得ノ年月日
  - 五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額
- 第十四條第二項ノ規定ハ組合員名簿ノ記載ニ之ヲ準用ス
- 裁判所ニ差出シタル組合員名簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス
- 第十六條 民法第四十五條第二項、第三項、第四十七條及第四十八條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用  
ス但シ同規定中一週間トアルヲ二週間トス
- 第三章 組合員ノ權利義務
- 第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組員ノ有スヘキ出資口數ハ十口ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 組員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺チ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 組員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スコトヲ得ス

組員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

第二十條 組員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十二條 新ニ組合ニ加入シタル組員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ

負擔ス

第二十三條 組員ハ總組員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シ

タル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得

第二十四條 組員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法法令又ハ定款ニ違背スト認ムル

トキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ヲ取消チ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第四章 管理

第二十五條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以

テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此

ノ限ニ在ラス

第二十七條 理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 理事及監事ノ選任及解任ハ總組員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ

以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 理事ハ定款及總會ノ決議錄ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組員名簿ヲ主タル事務所ニ備

ヘ置クヘシ

組員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事務報告書及剩餘金處

分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

組員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ

求ムヘシ

第三十二條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及

第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス

第三十三條 監事ハ理事其ノ他ノ事務員ト相兼メルコトヲ得ス

第三十四條 民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十五條 組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理事トノ間ノ訴訟ニ

付テモ亦同シ

第三十六條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル組員ノ議決

權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十七條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第三十八條 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス

第三十九條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第四十條 組合力出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十一條 債權者力前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者力異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十二條 前二條ノ規定ハ保證責任組合力組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 組合員力其ノ出資拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ

第四十四條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

組合員ノ持分ニ對スル剩餘金分配ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條 組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十七條 組合事業年度ハ一箇年トス

第四十八條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五章 加入及脱退

第四十九條 無限責任組合ニ加入セムトスル者ハ總組合員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五十條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否トテ問ハス組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ

前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

一 組合員タル資格ノ喪失

二 死亡

三 破産

四 禁治産

五 除名

第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第五十三條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 脱退シタル組合員ノ持分ハ其脱退ヲ名簿ニ記載シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム

第五十五條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第五十六條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ

第五十七條 脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シタル組合員ハ脱退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脱退ヲ組合員名簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス  
前項ノ規定ハ特別ノ契約ヲ以テ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ妨ケス

前二項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

第六章 監督

第五十九條 産業組合ハ主務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

第六十條 監督官廳ハ何時ニテモ理事ヲシテ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ組合ノ事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ行フ

第六十一條 組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲カ定款若ハ法令ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ總會ノ決議ヲ取消シ、理事、監事若ハ清算人ノ改選ヲ命ジ、組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ得

第七章 解散

第六十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 組合ノ合併
- 四 組合員カ七人未滿ニ減シタルトキ
- 五 組合ノ破産

第二十八條ノ規定ハ解散及合併ノ決議ニ之ヲ準用ス但シ無限責任組合ノ合併ニ付テハ總組合員ノ同意アルコトヲ要ス

第六十三條 組合力解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十四條 第四十條及第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十六條 組合力合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存続スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十七條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十八條 組合ハ總組合員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更スルコトヲ得

第六十九條 民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章 清算

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第七十一條 清算人ハ就職後遅滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條 清算事務力終リタルトキハ清算人ハ遅滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十四條 清算人ノ解任アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第七十五條 民法第七十三條乃至第八十三條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一週間トアルハ二週間トス

第九章 罰則

第七十六條 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以上三百圓以下ノ過料ニ處セラル

一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三十條第一項ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ若ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

四 第四十條、第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背シタルトキ

五 第六十條ノ報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

六 民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ

第十編 産業組合法

百九十四

七 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

八 民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ

第七十七條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第七十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十九條 産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第八十條 各登記所ニ産業組合登記簿ヲ備フ

第八十一條 組合設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス  
申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一定款

二 地方長官ノ許可書又ハ其ノ認證アル謄本

三 第十五條第二號及第五號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面

第八十二條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且地方長官ノ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ規定ハ組合員名簿ノ記載ノ申請ニ之ヲ準用ス

第八十三條 出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任、減少ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 地方長官ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本

二 第四十條第二項ニ依ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第八十四條 組合ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且組合カ總會ノ決議ニ因リテ解散シタルトキハ總會ノ決議録ヲ添附スヘシ

第八十五條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第八十三條ニ掲ケタル書面ヲ添附スヘシ

組合カ命令ニ因リテ解散シタルトハ登記所ハ監督官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第八十六條 第八十一條第一項ノ規定ハ出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ノ減少、組合ノ解散及組合ノ合併ニ因ル變更、設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所ハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合員名簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條 非訟事件手續法第三百三十六條乃至第三百三十八條第四百條乃至第五百一條第五百五十四條乃至第五百五十八條第六十三條乃至第六十五條及第七十五條乃至第七十七條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第八十九條 本法ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事北海道ニ於テハ支廳長沖繩縣ノ區ニ於テハ區長島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第九十條 北海道ニ於ケル産業組合ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得



●農會令 (三十三年二月勅令第三十號)

第一條 農會ハ市町村農會、郡農會北海道農會及府縣農會トス

本令ニ依リテ設立シタル農會ニ非サレハ前項ニ掲ケタル名稱ヲ附スルコトヲ得ス

第二條 市町村農會ノ區域ハ市町村又ハ町村組合ノ區域ニ依リ郡農會ノ區域ハ郡ノ區域ニ依リ北海道農會又ハ府縣農會ノ區域ハ北海道又ハ府縣ノ區域ニ依ル

町村農會ニ在リテハ特別ノ事由アルトキハ前項ノ區域ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡

長ノ認可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ

北海道ニ於テハ數郡ヲ以テ一郡農會ノ區域ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ北海道廳長官ノ認

可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ

第三條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ於テ耕地又ハ牧場ヲ所有スル者及農業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組

織シ郡農會ハ其ノ區域内ノ町村農會ヲ以テ之ヲ組織シ北海道農會又ハ府縣農會ハ其ノ區域内ノ

郡農會及市農會ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 市町村農會ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 會員ノ數第三條ノ資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上ナルコト

二 其ノ區域内ニ於テ會員ノ占有又ハ所有スル耕地及牧場ノ面積カ私用ニ供スル耕地及牧場

ノ總面積ノ二分ノ一以上ナルコト

北海道、沖繩縣、小笠原島及伊豆七島ニ於テハ前項第二號ノ條件ヲ要セス

第五條 郡農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ町村及町村組合總數ノ二分ノ

一以上タルコトヲ要ス

府縣農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ都市總數ノ二分ノ一以上タルコト

ヲ要ス

北海道ニ於ケル郡農會及北海農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ハ農商務大臣之ヲ定ム

第六條 北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ

必要ト認ムルトキハ農會ニ加入セサルモノニ對シ之カ加入ヲ命スルコトヲ得但シ第四條又ハ第

五條ニ定メタル要件ヲ闕キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 農會ノ設立者ハ會則ヲ定メ市町村農會ニ在リテハ五名以上ノ委員、其ノ他ノ農會ニ在リ

テハ之ヲ組織スル農會ノ會長ヨリ之ヲ行政廳ニ差出シ農會設立ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 會則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱

二 事業

三 事務所

四 役員ノ職務權限選任及任期ニ關スル規定

五 會議ニ關スル規定

六 會費ノ分賦收入ニ關スル規定

- 七 財産ニ關スル規定
- 八 處務及會計ニ關スル規定
- 九 入會及退會ニ關スル規定
- 十 會則ノ變更ニ關スル規定
- 十一 解散ニ關スル規定

會則ノ變更ハ行政廳ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セズ

第九條 郡農會、北海道農會又ハ府縣農會ヲ設立シタルトキハ之カ會議ニ參列セシムル爲其ノ農會ヲ組織スル農會ニ於テ三名以内ノ代表者ヲ選舉スヘシ

第十條 農會ハ農事ニ功勞アル者又ハ農事ニ關シ學識經驗アル者ヲ名譽會員ト爲スコトヲ得

名譽會員ハ議決權ヲ有セズ

第十一條 農會ハ會長及副會長各一名ヲ置クヘシ

會長ハ會務ヲ總理シ會ヲ代表ス

副會長ハ會長ノ事務ヲ補助シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第十二條 會長及副會長ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中ヨリ其ノ他ノ農會ニ在リテハ第九條ノ代表者中ヨリ之ヲ互選ス但シ名譽會員中ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ妨ケズ

第十三條 農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔トス

第十四條 農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十五條 農會ノ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ハ毎年之ヲ議決シ二月末日迄ニ行政廳ノ認可ヲ受

クヘシ

第十六條 農會ハ毎年六月三十日迄ニ前年度ノ經費ノ決算及會務ノ狀況ヲ會員又ハ農會ニ公示シ且之ヲ行政廳ニ報告スヘシ

第十七條 農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農事ニ關スル報告書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第十八條 農會ハ農事ノ改良發達ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

農會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第十九條 行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ農會ノ會務ノ狀況若ハ帳簿ヲ検査シ又ハ農會ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ行フコトヲ得

第二十條 農會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違背スルトキ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 決議ノ取消
- 二 役員ノ解職
- 三 事業ノ停止
- 四 解散

解職セラレタル役員ハ二箇年間役員タルコトヲ得ズ

第二十一條 農會ニ於テ解散ニ議決シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ行政廳ノ認可ヲ又クヘシ

第十編 土地收用法

二百

第二十二條 農會ニシテ第四條又ハ第五條ニ定メタル要件ヲ闕キタル場合ニ於テ六箇月以内ニ再ビ之ヲ具備スルニ至ラサルトキハ解散ス。

第二十三條 第七條、第八條第二項、第十五條、第十六條、第二十一條及 二十六條ノ行政廳ハ町村農會ニ在リテハ郡長トシ市農會及郡農會ニ在リテハ地方長官トシ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農務大臣トス。

附則

第二十四條 本令ハ農會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

第二十五條 本令中郡トアルハ伊豆七島及島川ヲ置キタル島嶼、市トアルハ北海道沖繩縣ノ區、町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル町村ニ準スヘキ地ヲ包含ス。

本令ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支廳長島川ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島川之ヲ行フ。

第二十六條 本令施行前ニ設立シタル農會ニシテ第四條又ハ第五條ニ定メタル要件ヲ具ヘ其ノ他本令ノ規定ニ牴觸セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ行政廳ノ認可ヲ受ケ本令ニ依リテ設立シタル農會ト看做スコトヲ得。

前項ノ認可ヲ申請シタル農會ニシテ第一條ニ掲ケタル名稱ヲ有スルモノハ其ノ認可アル迄仍從前ノ名稱ヲ繼續スルコトヲ得。

●土地收用法 (三十三年三月法律第二十九號)

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得。

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス。

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス。

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業

二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業

三 教育學藝又ハ慈善ニ關スル事業

四 鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、

電氣機、瓦斯燈又ハ火葬場ニ關スル事業

五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス。

第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス。

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ。

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ。

第十編 土地收用法

二百一

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做  
サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法通知ノ方法及書類ノ送達  
ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ  
爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方  
長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内省又ハ國  
ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區  
域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ檢  
査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通  
知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ  
邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障  
害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通  
知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内閣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此  
ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シ  
テ内務大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ内閣ニ提出スヘシ

宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ  
協議ヲ爲シ之ヲ内閣ニ提出スヘシ

第十四條 内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定  
ヲ爲スコトヲ得

前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡  
市長ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類使用スヘキ土地ノ區域及使用

ノ期間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

第十七條 郡市長カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

郡市長カ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲サルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ必要ト認ムルトキハ土地所有者又ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地所有者又ハ關係人カ調査ノ必要ヲ認メタルトキハ前二項ノ規定ヲ適用ス

起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作りタル調査ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ起業者ハ其申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フル事ヲ要セス

一 事業計畫書及圖面

二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目  
收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割

ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ豫メ公告ヲ爲シ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前條期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會ヲ召集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築改築又ハ増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 都市長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域

二 損失ノ補償

三 收用時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スハシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ  
高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者  
ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス  
收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可ク同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ  
得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四等親内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナ  
キトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市參事會員町村長、合名會社ノ社員合資  
會社及株式合資會社ノ無限責任社員株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルト  
キ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順  
序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定觸ルセサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

一 府縣名譽職參事會員

二 府縣名譽職參事會員ノ補充員

三 府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス  
第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ビ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ  
聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼  
出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ  
裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ  
收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス  
第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其損失ヲ補償スヘシ  
第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ  
生スヘキトキハ其損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用非タル目的ニ供スルコト能ハサルトキ

ハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サンハ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ヲ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用力三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築改築増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他

人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

- 一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
- 三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
- 四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

- 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ



第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ重業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス

第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起

業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二ヶ月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

第十編 土地收用法

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁判ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セム又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ贈與シ又ハ贈與スルコトヲ約シタル者亦同シ

第七十六條 第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ障害物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者ハ詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其他方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタルモ亦同シ

第八十條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出テ受ケタル者故故ナク出頭セサルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章 訴願及訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁判ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁判ニ由リ權利ヲ傷害セラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁判書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第八十二條 收用審査會ノ裁判中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁判書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

附則

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年 太政官達第三百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テハ地方長官之ヲ行フ  
郡長ノ爲スヘキ職務ハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ヲ置カサル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區長ヲ置キタル地ニ於テハ區長之ヲ行フ  
町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ町村長ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

●土地收用法施行令 (三十三年三月勅令第九十九號)

第一條 土地收用法第十條第三項及第十一條第二項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ  
日出前日没後邸内ニ立入ル者又ハ障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ携帯スヘシ

第三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調書及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

一 御陵墓地及御料地

二 國有地

三 現ニ公用ニ供スル土地

四 社寺境内地

五 名所、舊蹟及古墳墓

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 内閣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ  
地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リ調書ヲ作りタル者ハ之ニ署名又ハ捺印スヘシ

第十編 土地收用法施行令

第十編 土地收用法施行令

二百十八

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ縦覽期間ノ始期ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

一 工事ノ種類

二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目

三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係

本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十一條 收用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ左ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

一 汽車賃一哩ニ付三錢以上六錢以下

二 船賃一海里ニ付三錢以上六錢以下

三 車馬賃一里ニ付十錢以上三十錢以下

通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金一圓乃至五圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル

鑑定ヲ爲スニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官力決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 土地收用法第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置ニ關シテハ之ヲ郡市長ニ委任スルコトヲ得

第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件 (三十三年三月勅令第百號)

第一條 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス

第二條 期間ヲ定ムルニ時テ以テシタルトキハ即時ヨリ之ヲ起算ス

第三條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ其期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ期間ノ滿了トス

第四條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルトキハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス但シ行政廳ニ對スル期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當ルトキハ其ノ休日ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿了ス

第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了ス

第六條 土地收用法第十八條第二十五條及第三十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル場合ニ於テハ其ノ遞送ニ要スル日時ヲ算入セス

第七條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ内務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 書類ノ送達ニシテ送達者自ラ送達セサル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵便ニ依ルコトヲ得

第九條 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十條 委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テモ其ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケス

第十一條 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因ル代理人アルトキハ此ノ限ニ在ラス

法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ代表者又ハ業務執行者數人アル場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 現役及召集中ノ豫備後備ノ軍籍ニ在ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十三條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首長ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ現所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第十五條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス

第十六條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所居所又ハ事務所ニ在ラサルトキハ其送達ハ現場ニ在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十編 土地收用法第六條ニ基ツキテ發スル命令ノ件

三百二十二

第十一條第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ住所又ハ居所ノ門戸ニ貼付シ且近隣ニ住居スル者二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受領セス又ハ受領スルコト能ハサルトキハ其ノ書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十七條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場所及年月日時ヲ記載セル受領證ヲ交付スヘシ前項ノ受領證ヲ交付セス又ハ交付スルコト能ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ送達ヲ爲シタルトキハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所居所又ハ事務所不明ナルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地所在ノ市町村長ニ於テ之ヲ公告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 訴願及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴願法行政裁判法及民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件 (三十三年三月勅令第三)

月勅令第百一號)

第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二條 合同收用審査會會長ハ開會地ノ地方長官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關係府縣收用審査會委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ合同收用審査會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官之ヲ行フ

第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ負擔スヘキモノノ中高等文官ニ非サル委員ノ旅費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府縣ノ分擔トス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第六十九條ニ依リテ發スル命令ノ件 (三十三年三月勅令第百二號)

百二號)

第一條 收用審査會ノ費用中左ニ掲ケタルモノハ起業者ノ負擔トス

一 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當

第十編 土地收用法第四十六條ニ依ル合同收用審査會ニ關スル件 二百二十三

第十編 土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件 二百二十四

二 裁決書謄本ノ調製費

三 郵便及電信料

四 傭人料

五 其ノ他内務大臣ノ指定シタルモノ

第二條 收用審査會ノ費用中收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三條 土地收用法第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第八十五條第三項ニ基ツキテ發スル命令ノ件 (三十三年三月勅令第三百三號)

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地收用法第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

- 一 公用土地買上規則第四則但書又ハ第八則ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地
- 二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地收用法施行ノ際現ニ條理保存費ヲ負擔スル土地
- 三 明治三十二年勅令第三百三十三號第一條ノ規定ニ依リ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地

四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地

五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタル土地

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●蠶種検査法 (三十三年三月法律第四十五號)

第一條 本法ニ於テ蠶種ト稱スルハ原種及製絲用種ヲ謂フ

第二條 原種ハ框製ニスヘシ

第三條 蠶種ハ検査ニ合格シタル原種ヨリ產生シタル繭ヲ用ウルニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス

第四條 蠶種ハ左ニ掲クル繭ヲ以テ之ヲ製造スルコトヲ得ス

- 一 二繭以上合同シテ作りタル繭
- 二 繭層片薄ナル繭若ハ形狀ヲ失スルコト著シキ繭
- 三 繭層ノ重繭ノ全量百ニ對シ一化性ニ在リテハ十、二化性ニ在リテハ七、多化性ニ在リテハ六ニ達セサルモノ

四 蠶兒發育不良ニシテ收繭ノ量著シク減少シタルモノ

五 蠶種製造者ニ非サル者ノ飼育シタル蠶兒ヨリ產生シタル繭

第五條 蠶種製造者ハ検査ニ合格シタル原種ヨリ產生シタル蠶兒ニ非サレハ飼育スルコトヲ得ス

第六條 蠶種製造者ハ收繭後及産卵後ノ二期ニ於テ原種ニ在リテハ繭、蛾及卵、越年スル製絲用種

第十編 蠶種検査法

ニ在リテハ繭及卵、越年セサル製絲用種ニ在リテハ繭ノ検査ヲ受ケヘシ

第七條 原種ノ掃穀及第四條第一號乃至第三號ニ掲ケタル繭ハ收繭後ノ検査ヲ經ル迄之ヲ保存ス

ヘシ

蠶種ノ製造ニ供用シタル繭及原種ノ製造ニ供用シタル母蛾ハ産卵後ノ検査ヲ經ル迄之ヲ保存ス

ヘシ

第八條 検査ニ合格セサル蠶種ハ蠶種検査所ニ於テ直チニ之ヲ燒棄スヘシ

第九條 検査合格ノ證印ナキ蠶種ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十條 地方長官ハ蠶種検査員ヲシテ蠶種製造者ニ就キ養蠶、收繭及産卵ノ狀況ヲ視察セシムヘシ

第十一條 蠶種検査員ハ自己若ハ家族ノ製造スル蠶種ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 蠶種検査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ國庫ハ其ノ半額以内ヲ補充スルコトヲ得

北海道廳及沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第十三條 自家用又ハ學術研究ノ爲蠶種ヲ製造スル者ニハ本法ヲ適用セス

第十四條 學術研究ノ爲製造シタル原種ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ検査ニ合格シタルモノト

看做スコトヲ得

第十五條 自家用又ハ學術研究ノ爲製造シタル蠶種ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ前條ニ該當ス

ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 第三條乃至第六條第九條又ハ第十五條ニ違背シタル者又ハ蠶種検査員ノ職務執行ヲ拒

ミ若ハ之ヲ妨ケタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第七條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十八條 本法ハ命令ヲ以テ指定スル地ニ之ヲ施行セス

第十九條 本法ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

蠶業條例中改正法律 (三十三年三月法律第七十四號)

蠶業條例中左ノ通改正ス

第二條中「鉛礦」ノ下ニ「銻鉛礦」、「硫化鐵礦」ノ下ニ「格魯謨鐵礦」、「砒礦」ノ下ニ「燐礦」、「石炭」ノ下ニ「亞炭」、「石油」ノ下ニ「土瀝青」ヲ加フ

第三條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ設立シタル會社ニ非レハ蠶業人トナルコトヲ得ス

第四十八條中第四號ヲ左ノ如ク改ム

一 蠶業上必要ノ製練場其ノ他ノ建物電線鐵索及鐵管ヲ建設スル爲

第九十二條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第九十三條 明治三十二年十一月三十日以前ヨリ引續キ若鉛礦、格魯謨鐵礦、燐礦、亞炭又ハ土瀝

青ヲ採取スル者ニシテ明治三十三年六月三十日迄ニ其ノ礦物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ

採取區域ニ限リ第十六條及蠶區ノ面積ニ關スル第四十一條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ採取者ハ明治三十三年六月三十日迄其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規

定ニ拘ラス其ノ採取ヲ繼續スルコトヲ得

第十編 蠶業條例中改正法律



第九十四條 前條ノ規定ニ依リ採掘ノ特許ヲ出願スル者ハ第二十二條又ハ第二十三條ノ承諾ヲ得

ルコトヲ要セス

第九十五條 第九十三條ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル鑛區ノ面積三千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 第十一編 租 稅

#### ●水害地方租特別處分法 (三十三年一月法律第一號)

第一條 本法ハ明治三十二年七月ヨリ十月マテノ洪水ニ因リテ生シタル損害地ニ適用ス

第二條 荒地ニ至ラサルモ收穫皆無トナリタル土地ニ限り明治三十二年分地租ヲ免除ス

第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治三十二年分ニ限り之ヲ免除ス

第四條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ地租徵收ヲ猶豫ス

第五條 本法施行前ニ徵收シタル既納ノ地租金ハ之ヲ還付ス

第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治三十三年六月三十日迄ニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サルモノハ本法ノ處分ヲ受ケルコトヲ得ス

附 則

本法ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

#### ●虫害地地租特別處分法 (三十三年三月法律第二十四號)

第一條 本法ハ明治三十二年中德島縣那賀郡立江村坂野村羽ノ浦村ニ於テ螟蟲ノ害ヲ被リタル土地ニ適用ス

第二條 前條ノ土地ニシテ收穫皆無ナルモノニ限り明治三十二年分地租ヲ免除ス

第十一編 水害地方地租特別處分法 虫害地地租特別處分法 二百二十九

第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治三十二年分ニ限り之ヲ免除ス

第四條 本法ニ依リ被害取調中ハ其ノ地租徴收ヲ猶豫ス

第五條 本法ニ依リ地租ヲ免除セラルヘキ土地ニ付既ニ納メタル地租金ハ之ヲ還付ス

第六條 本法ノ施行ニ關シハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治三十三年三月三十一日迄ニ收穫ノ皆無タリシ事

實ヲ證明シ所轄稅務署ニ申請スヘシ此ノ期限内ニ申請セサル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得

ス

附 則

本法ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

●酒造税法中改正法律 (三十三年三月法律第四十二號)

酒造税法中左ノ通改正ス

第四十條 酒類ヲ製造スル者ハ府縣郡市若ハ稅務署管内チ一區域トシテ酒造組合ヲ設ケヘシ但シ

土地ノ狀況ニ依リ數都市若ハ數稅務署管内チ一區域ト爲スコトヲ得

組合ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●自家用醬油税法 (三十三年三月法律四十三號)

第一條 自家用醬油(溜ヲ併稱ス)一箇年五石以下ヲ製造セムトスル者ハ本法ニ依リ政府ノ免

許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

前項ニ依リ免許ヲ受ケタル製造高ヲ變更セムトスルトキハ更ニ政府ノ許可ヲ受クヘシ但シ同年

内ニ於テハ製造高ノ變更ヲ許可セス

第二條 自家用醬油製造免許ハ一家一人ニ限ル

第三條 自家用醬油製造人ハ其ノ製造見積高ニ依リ毎年左ノ製造稅ヲ納ムヘシ

第一種 二石未滿 金一圓

第二種 三石未滿 金二圓

第三種 四石未滿 金三圓

第四種 五石以下 金四圓

第四條 製造稅ハ之ヲ二分シテ其ノ年十月及翌年三月ヲ以テ納期トス但シ納期後免許ヲ受ケルト

キハ即納トス

第五條 自家用醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ各自ノ居宅域内ニ限り之ヲ製造スルモノトス

第六條 當該官吏ハ自家用醬油製造者ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第七條 自家用醬油製造者其ノ製造シタル醬油ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用醬油ヲ製

造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金處ス

第八條 自家用醬油製造者免許制限ヲ超過シテ醬油ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰

金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ醬油稅則第二條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ即時之徴收ス

第十一編 自家用醬油税法

第九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕、再犯加重、數罪併發ノ例ヲ用非ス

第十條 自家用醬油製造者ノ家族、雇人等ニシテ其ノ製造ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十一條 左ニ記載シタル者ニハ本法ヲ適用セス

一 自家用醬油製造者ニシテ一家一箇年ノ諸味仕込高又ハ溜製成高一石以下ニ止ルモノ

二 醬油製造營業人醬油請賣人

三 料理店、飲食店、旅人宿營業者

四 前三號ノ者ト同居スル者

本法ニ依リ免法ヲ受ケタ者前項第二號以下ニ該當スルニ至リタルトキハ本法ニ依リ免許ヲ以テ醬油税則ニ依ル免許ト看做シ以後製造ニ係ル醬油ニハ同税則ヲ適用ス但シ其ノ年ノ製造税ハ之ヲ免除セス

第十二條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ對シテハ醬油税則ヲ適用セス

附 則

第十三條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ノ明治三十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日マテノ間ニ製造シタル醬油ニシテ醬油税則ニ依リ査定ヲ受ケタルモノニ關シテハ其ノ造石税ヲ免除ス

第十五條 沖繩縣、東京府管下小笠原島、伊豆七島ニハ當分本法ヲ施行セス

●登錄税法中改正法律 (三十三年三月法律四十四號)

登錄税法中左ノ通改正ス

第十九條第二號ヲ左ノ如ク改ム

府縣都市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記

同條第三號中「公園」ヲ削ル

●自家用醬油税法施行規則 (三十三年三月勅令六十七號)

第一條 自家用醬油税法第一條ニ依リ自家用トシテ醬油ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所

氏名、自家用油税法第三條ノ種別及醬油製造方法ヲ記シ稅務管理局長ニ申請スヘシ

第二條 自家用醬油税法第三條ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ前年中ニ變更ノ申請書ヲ稅務管理局長ニ差出スヘシ

第三條 自家用醬油製造者其ノ居所、氏名又ハ製造方法ヲ變更シタルトキハ直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第四條 自家用醬油ノ税法ニ依リ免許ヲ受ケタル者同法第十一條第二號以下ニ該當スルニ至リタルキハ其ノ旨直ニ稅務管理局長ニ申告スヘシ

第五條 自家用醬油ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨稅務管理局長ニ申請スヘシ  
自家用醬油製造者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人又ハ財産管理人ヨリ其ノ旨稅務管理局長ニ申告スヘシ

●教育基金令 (三十二年十一月勅令第四百三十五號)

- 第一條 教育基金元資金ヨリ生スル收入ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ使用ス
- 第二條 文部大臣ハ教育基金特別會計法第四條ニ依リ一般ノ歳出トシテ毎年度豫算ニ於テ定マリタル金額ヲ前年十二月三十一日現在ノ學齡兒童數ニ應シテ北海道廳及府縣ニ配當ス
- 第三條 前條ノ配當金ハ沖繩縣ヲ除クノ外府縣ニ下付スヘシ
- 府縣ハ前項ノ下付金ヲ以テ其ノ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設置スヘシ
- 北海道廳及沖繩縣ノ配當金ハ文部大臣之ヲ管理ス
- 第四條 教育資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ
- 第五條 教育資金ハ第八條ノ場合ヲ除クノ外市町村立尋常小學校ノ校地校舍ヲ設備スル費用ニ充ツル爲市制町村制ヲ施行シタル地方ニ於テハ之ヲ市町村町村組合町村學校組合ニ貸付シ其ノ他ノ地方ニ於テハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス
- 第六條 貸付金額ハ市町村町村組合町村學校組合ノ申請ニ依リ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分ノ七以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム
- 貸付金ノ償還期限ハ十箇年以内トシ年賦ヲ以テ之ヲ償還モシムヘシ
- 貸付金ニ對シテハ一箇年百分ノ五ノ利子ヲ附スヘシ
- 第七條 補助金額ハ第五條ノ設備ニ要スル費用ノ總額十分ノ三以内ニ於テ地方長官之ヲ定ム

第十一編

北海道官設鐵道用品買入ニ關スル法律手續 府縣監獄  
費及府縣監獄建築修繕費國庫支辨ニ關スル法律

二百三十六

第八條 府縣ハ毎年配當ヲ受ケタル金額十分ノ三以内ヲ限リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ市町村立小學  
校教員ノ獎勵其ノ他普通教育ニ關スル費用ニ充ツルコトヲ得

第九條 府縣知事ハ教育資金使用ニ關スル規則ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第十條 北海道廳及沖繩縣ノ配當金ノ使用ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第十一條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 教育基金申本令施行以前ニ生シタル利子額ニ相當スル金額ノ使用方法ハ文部大臣ノ定  
ムル所ニ依ル

●北海道官設鐵道用品

買入手續ニ關スル法律 (三十二年十二月法律第八號)

北海道官設鐵道用品ヲ北海道官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ルルトキハ前金拂並概算渡ヲ爲スコ  
トヲ得

●府縣監獄費及府縣監獄建築修繕費

國庫支辨ニ關スル法律 (三十三年一月法律第四號)

第一條 監獄ニ關スル費用ハ總テ國庫ニ於テ之ヲ支辨ス

第二條 府縣監獄ニ屬スル府縣有土地建物業器具器械素製品其ノ他ノ物件ハ國庫ニ歸屬ス

附 則

第三條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本法發布以後施行ノ日迄ノ間ニ於テ第二條ニ掲ケル土地物件ノ處分ヲ要スルトキハ命令  
ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ノ外内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第五條 本法施行ノ際國庫地方費區分ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●印刷局据置運轉資本増加 (三十三年一月法律第七號)

明治三十三年度ニ於テ金三萬八百九十四圓六十六錢六厘ヲ印刷局据置運轉資本金ニ増加ス

●海軍造兵材料資金會計法 (三十三年一月法律第九號)

(三十三年一月法律第九號)

第一條 海軍造兵事業ノ需要ニ應スル爲材料貯蓄ノ資本トシテ海軍造兵材料資金ヲ置キ特別ノ會  
計ヲ立テシム

第二條 海軍造兵材料資金ハ明治三十三年四月一日現在ノ海軍造兵廠及鎮守府兵器部ニ於ケル貯  
蓄材料ヲ以テ之ニ充テ毎年第六條ノ過剩金ニ相當スル金額ヲ加ヘ漸次増加シテ三百萬圓トス

第三條 海軍造兵材料資金會計ニ屬スル造兵材料ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購  
入スヘシ此ノ場合ニ於テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四條 海軍造兵材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ノ損滅ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料原價ニ加算スヘ  
シ

第五條 造兵事業ニ使用シタル材料ノ殘材殘屑及廢兵器ニシテ造兵材料トシテ使用シ得ヘキモノ  
ハ海軍造兵材料資金會計ノ材料ニ組入ルルコトヲ得

第十一編 印刷局据置運轉資本増加 海軍造兵材料資金會計法

二百三十七

第十一編 海軍造兵材料資金會計法

二百三十八

第六條 毎會計年度ニ於テ海軍造兵材料資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其ノ過剩金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第七條 政府ハ毎年海軍造兵材料資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 海軍造兵材料資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

●葉煙草專賣資金會計規則中改正ノ件 (三十三年一月勅令第六號)

葉煙草專賣資金會計規則第五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ明治三十年勅令第二百七十五號ニ依リ延納ヲ許可シタル葉煙草ノ代金ニ限リ翌年度七月三十一日迄ハ當該年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

●保管金規則中改正 (三十三年二月法律第十八號)

保管金規則中左ノ通改正ス

第一條中「滿三十年」ヲ「滿五年」ニ改ム

附 則

本法ノ期間ハ本法施行前ノ保管金ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ起算ス

●專賣局作業會計規則 (三十三年二月勅令第二十號)

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日迄ニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 所管大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價格増減表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第三條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度十二月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

專賣局長又ハ專賣支局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲毎年度歳入徴收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ年度經過後二箇月以内ニ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(三十三年三月勅令第三十號ヲ以テ改正)

專賣局長又ハ專賣支局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ翌月十五日迄ニ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第四條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣之ヲ專賣局長及專賣支局長ニ命シテ執行セシムヘシ

第五條 專賣局長又ハ專賣支局長ハ歳出ヲ支出スル爲金庫ニ向テ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第六條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ葉煙草ノ賠償及購買費、外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費及支部局

第十二編 專賣局作業會計規則

二百三十九

第十二編 專賣局作業會計規則

二百四十

ノ經費ニ限り專賣局又ハ專賣支局ノ出納官吏ニ現金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

第七條 各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ毎年度三月三十一日限リトス

仕拂請求書發行及取扱ノ手續ハ仕拂命令ノ例ニ依ル

第八條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ毎年度三月三十一日限リトス

第九條 毎年度内ニ收入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收入未濟トシテ順次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ明治三十年勅令第三百七十五號ニ依リ延納ヲ許可シタル葉煙草ノ代金ニ限り翌年度七月三十一日迄ハ當該年度ノ歳入ニ組入ルベシ

第十條 毎年度内ニ仕拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ仕拂請求書ヲ發セサルモノハ支出未濟トシテ順次翌年度ニ繰越シ當該年度經過後滿五箇年内ハ支出ノ請求アル毎ニ仕拂請求書ヲ發スヘシ但シ支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルヲ得ス

第十一條 毎年度内ニ於テ仕拂請求書ヲ發シ金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受ケサルモノハ仕拂未濟トシテ之ニ相當スル資金ヲ翌年度ニ繰越シ仕拂ノ請求アル毎ニ仕拂ヲ爲スヘシ

第十二條 前條ノ仕拂未濟金ハ會計法第十八條ニ依リ仕拂義務ヲ免レタルトキハ其ノ期滿免除トナリタル年度ノ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第十三條 仕拂請求書ノ執行ニ關シテハ仕拂命令執行ノ例ニ依ル

第十四條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニヨリ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ專賣局ニ送付スヘシ

專賣局作業全部ノ毎月徵收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(同上)

第十五條 金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ

第十六條 資本ハ總テ價格ヲ付シテ計算スヘシ

第十七條 資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム

一 土地ハ近鄰地ノ賣買價格五箇年間ノ平均ニ依ル近鄰ニ比較スヘキ相當ノ土地ナキトキハ五人以上ノ評價人ヲ定メ其ノ評定價格平均ニ依ル

二 建造物及其ノ他ノ工作物機械器具及其ノ他ノ物品ハ建築費又ハ購入價格ニ依ル建築費又ハ購入價格ノ不明ナルモノハ物件ノ輕重ニ依リ二人以上ノ評價人ヲ定メ其ノ評定價格ノ平均ニ依ル

三 葉煙草ハ賠償又ハ購買價格ニ依ル其ノ没收等ニ係ルモノハ其ノ比準價格ニ依ル

第十八條 土地ノ價格ハ前條ノ方法ニ依リ毎五年ニ之ヲ改定スヘシ

第十九條 建造物及其ノ他ノ工作物機械器具及其ノ他ノ物品ハ永遠保存品ヲ除キ總テ保存期限ヲ定メ其ノ期限ニ應シテ毎年價格ヲ遞減スヘシ

前項中固定資本ニ屬スル物件ヲ修理シタルトキハ其ノ修理費ヲ以テ現年ノ價格ニ加ヘ再ヒ保存年限ニ應シテ價格ヲ價減スヘシ

第二十條 前條ノ物件ヲ修理シタルトキハ保存年限ヲ改定シテ之ヲ延フルコトヲ得

第二十一條 毎年度ノ終リニ現在スル葉煙草ニシテ毀損又ハ變質ニ因リ其ノ價格減少スルトキハ

當時ノ賠償又ハ購買價格ニ比準シテ改定スヘシ

第二十二條 歳入ノ收入濟額、收入未濟額据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高、總葉煙草ノ價格、總備品ノ價格ヲ以テ受入トシ歳出ノ支出濟額、支出未濟額、据置運轉資本額、賣拂代價收入濟物品ノ價格、賣拂代價收入未濟物品ノ價格、損失ニ歸シタル物品ノ價格ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ殘餘アルトキハ作業ノ益金トシテ其ノ事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第二十三條 大藏省ハ專賣局作業會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、支出濟額ヲ登記スヘシ

第二十四條 專賣局ハ日記簿、原簿、補助簿ヲ備ヘ其ノ事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第二十五條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ(同上)

第二十六條 專賣局ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額ヲ登記スヘシ

第二十七條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、仕拂請求書受領濟額ヲ登記スヘシ

第二十八條 此ノ規則ニ規定セサルモノハ總テ會計規則ノ各條項ヲ適用ス

附則

本令ハ明治三十三年度ヨリ施行ス

### 官設鐵道、郵便電信、郵便爲替及郵便貯金ニ屬スル現金出納ニ

關スル法律 (二十三年三月法律第五十號)

官設鐵道、郵便、電信、郵便爲替及郵便貯金ニ屬スル現金ノ出納ハ鐵道、郵便、電信、電話官署ノ事務員ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

前項事務員ニ對シテハ會計法第九章ニ定ムル出納官吏ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 海軍造兵材料資金會計規則 (三十三年三月勅令第五十五號)

第一條 造兵材料資金ハ貯蓄材料賣拂代金ヲ以テ歳入トシ材料購入代、製作費、改製費、修理費並其ノ附屬諸費及損失金ヲ以テ歳出トス

第二條 造兵材料資金ノ歳出ハ實際ノ歳入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支辨スヘシ

第三條 歳入歳出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル

第四條 收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル

第五條 貯蓄材料ノ原價ハ購入代價、製作費、改製費、修理費並其ノ附屬諸費ヲ以テ計算スヘシ但シ市價ノ低落又ハ毀損等ニ因リ其ノ實價減少シタルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其ノ價格ヲ改定スヘシ



第十二編 海軍造兵材料資金會計規則

二百四十四

- 第六條 貯蓄材料ヲ使用スルトキハ原價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ
- 第七條 貯蓄材料ノ損減歩合ハ前年度及前前年度ノ損減高ヲ參酌シテ之ヲ定ム
- 第八條 歳入額、收入未済額、資金ニ屬スル現金ノ持越高、總材料ノ價格及代價支出済未收物品ノ價格ヲ以テ受入トシ歳出額、支出未済額、資金額、前受金ノ精算未済額、賣拂代收済材料ノ價格、賣拂代收済未済既出材料ノ價格、損失ニ歸シタル材料ノ價格及損失金ヲ以テ拂出トシ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ造兵材料賣拂益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ
- 第九條 出納官吏ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第七章ノ例ニ依ル
- 第十條 帳簿ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル
- 第十一條 此ノ規則ニ規定セサルモノハ會計規則ノ各條項ヲ適用ス

附則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

會計規則改正ノ件 (三十三年勅令第二百二十七號)

會計規則中左ノ項改正ス

- 第二十五條 收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入ヲ徵收スル官吏ニ報告スヘシ
- 第二十六條 第九十一條第九十三條第九十四條及第一百十八條中「現金ヲ領收スル收入官吏」ヲ「收入官吏ニ改ム

吏ニ改ム

第二十七條中「收入官吏ノ拂込ニ係ル分ニ付テハ歳入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ又納人ニ係ル分ニ付テハ收入官吏ニ通知スヘシ」ヲ「歳入ヲ徵收スル官吏ニ通知スヘシ」ニ改ム

第三十條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニ據リ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ前條ノ徵收報告書ニ據リ毎月徵收總報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三十一條ノ二 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納額告知書ヲ發セサルモノハ總テ納額告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ編入スヘシ

第三十五條中「金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ」ヲ「金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スルモノハ」ニ改ム

第四十五條第一項中「金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル」ヲ「金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル」ニ改メ第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但集合仕拂命令、金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ニ對シテハ、領收證書ト引替ニ現金ヲ交付スヘシ

第五十二條第二項中「調定」ヲ總テ「徵收」ニ改ム

第五十七條第一項及第二項第二號ヲ左ノ如ク改ム

各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度五月三十一日

第十二編 會計規則中改正ノ件

二百四十五

第十二編 會計規則中改正ノ件 作業及鐵道會計規則中改正ノ件 二百四十六

迄ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

第二 右定額ニ對シ既ニ仕拂命令濟トナリタル額及當該年度所屬トシテ仕拂命令ヲ發スヘキ額

第九十五條及第九十六條ヲ削ル

第九十七條 收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書

ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ヲ徵收スル官吏ニ送付シ歳入ヲ徵收ス

ル官吏ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第百二條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但保證人ノ責任ハ免除シタル保證金額ニ止ルモノトス

第百六條中及「其保證人」ヲ削ル

第百十四條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、不納缺

損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

附 則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

● 作業及鐵道會計規則中改正ノ件 (三十三年三月勅令第百二十八號)

作業及鐵道會計規則中左ノ通改正ス

第九條第二項中「確定」ヲ「確收ニ」改ム

第二十一條第一項中「金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル」ヲ「金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要

スル」ニ改ム

第二十六條 歳入ヲ收入スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニヨリ毎月徵收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添

ヘ翌月十五日迄ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ但作業支部局ノ歳入ヲ徵收ス

ル官吏ハ其徵收報告書ヲ翌月七日迄ニ作業事務本局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ニ送付スヘシ

第二十七條 作業事務本局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ハ作業全部ノ徵收合計表ヲ調製シ本局及支局ノ

歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十四條ヲ削ル

第四十七條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收

入未濟額ヲ登記スヘシ

第四十九條中「現金ヲ出納スル場合ニ於テ」ヲ削ル

附 則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

● 官立學校及圖書館會計規則中改正ノ件 (三十三年三月勅令第百二十九號)

官立學校及圖書館會計規則中左ノ通改正ス

第十四條第二項中「確定」ヲ「徵收」ニ改ム

第二十七條第一項中「金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル」ヲ「金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要

第十二編

作業及鐵道會計規則中改正ノ件

二百四十七

第十二編 官立學校及圖書館會計規則中改正ノ件

二百四十八

スルニ改ム

第二十八條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニヨリ毎月徵收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第三十二條 所管大臣學校又ハ圖書館ノ經費ヲ繰越サントスルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ作り必要ノ参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

第三十八條 出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章ノ例ニ依ル

第四十條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

附 則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

第十三編 貨幣、公債、度量衡

## 第十四編 學 事

### ●圖書館令 (三十二年十一月勅令第四百二十九號)

- 第一條 北海條道府縣郡市町村(北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム)ニ於テハ圖書ヲ蒐集シ公眾ノ閱覽ニ供セムカ爲圖書館ヲ設置スルコトヲ得
- 第二條 明治二十六年勅令第三十三號ノ規定ハ圖書館ニ關シ之ヲ準用ス
- 第三條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ圖書館ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 圖書館ハ公立學校又ハ私立學校ニ附設スルコトヲ得
- 第五條 圖書館ノ設置廢止ハ其ノ公立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ私立ニ係ルモノハ文部大臣ニ開申スヘシ
- 第六條 公立圖書館ニハ館長及書記ヲ置キ地方長官之ヲ任免ス  
館長書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケ其ノ等級配當ニ關シテハ館長ニハ明治二十五年勅令第三十九號中判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケル公立中學校教諭ニ關スル規定、書記ニハ公立中學校書記ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第七條 公立圖書館ニ於テハ圖書閱覽料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

第八條 諸學校通則第三條中及小學校令中書籍館及圖書館ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第十四編 圖書館令

二百五十一

●市町村立小學校教育費國庫補助法 (三十三年三月法律第六十三號)

第一條 市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス  
第二條 前條ノ補助金ハ市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小學校教員ノ特別加俸ニ充ツ其ノ加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 第一條ノ補助金ハ學齡兒童數及就學兒童數ノ和ニ比例シテ之ヲ北海道廳及府縣ニ配賦ス  
北海道廳及沖繩縣ノ配賦金ハ文部大臣之ヲ管理シ其ノ他ハ之ヲ府縣ニ下付スヘシ

附 則

第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ之ヲ廢止ス

第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功加俸ヲ受ケル者ニハ同一學校ニ勤續スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受ケル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

●市町村立小學校教員加俸令 (三十三年三月勅令第三百三十三號)

第一條 沖繩縣ヲ除クノ外府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第二項ノ下付金ヲ以テ市町村立小學校教員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ

前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第二條 市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第三條 市町村立小學校本科教員ニシテ五箇年以上同一府縣内ノ市町村立小學校ニ勤續シ地方長官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス

年功加俸ハ正教員ニ在リテハ年額二十四圓トシ准教員ニ在リテハ年額十八圓トス但シ年功加俸ヲ受ケタル後勤續年數五箇年ヲ加フル毎ニ正教員ニ在リテハ年額十八圓ヲ加ヘ准教員ニ在リテハ年額十二圓ヲ加フルコトヲ得

第四條 兵役ニ服スル爲其ノ職ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後九十日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤續年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦同シ

第五條 師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤續年數ニ通算ス

第六條 年功加俸ヲ受ケル者懲戒處分ヲ受ケタルトキ又ハ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認メタルトキハ年功加俸ヲ支給セス

第七條 市町村立尋常小學校本科正教員ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額二十四圓以下ノ特別加俸ヲ給ス其ノ僻處ノ地ニ在ル多級學校ニ勤續スル者ニハ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テハ本科正教員ト看做ス

第十四編 教員免許令

二百五十四

第九條 市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受ケル

附 則

第十條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受ケル者ニシテ本令第三條第一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其ノ額同法ニ依リ受ケル額ヨリ算キトキハ同一學校ニ勤続スル間其ノ差額ヲ加給ス

●教員免許令 (三十三年三月勅令第三百三十四號)

第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業生又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス

第四條 教員檢定ハ試験檢定及無試験檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受ケルコトヲ得ス

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復讐シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復讐セザル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ辨償ノ債務ヲ終ヘサル者

第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金參圓ヲ納付スヘシ

第七條 教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ

第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用井之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附 則

第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高學等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學師範學科卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第十四編 教員免許令

二百五十五

●寄附財産ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル件

(三十三年三月勅令第百三十六號)

第一條 學校ヲ設置維持スル爲財産ヲ國府縣郡又ハ市町村ニ寄附シ學校ノ設置維持ヲ願出テタル者アルトキハ國府縣郡又ハ市町村ハ其ノ寄附財産ヲ受ケ寄附者ノ指定シタル學校ヲ設置維持スルコトヲ得

第二條 本令ニ依リ設置スル公立學校ノ會計ハ特別會計ト爲スヘシ

第三條 本令ニ依リ設置スル學校ハ寄附者ノ志望ニ依リ名稱ヲ付スルコトヲ得

第四條 本令ニ依リ設置シタル學校ノ毎年度經費豫算ニ關シテハ調製前寄附者又ハ其ノ相續人ノ意見ヲ聞クヘシ

第五條 本令ニ依リ設置シタル學校ニ於テハ寄附費又ハ其ノ相續人ニ特別ノ關係アル生徒ニ對シ試験料入學料又ハ授業料ヲ減額シ又ハ免除スルコトヲ得但シ第六條ニ依リ一般會計ヨリ補足ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 國府縣郡又ハ市町村ハ本令ニ依リ設置シタル學校ノ毎年度經費中職員ノ俸給ニ要スル費用ニ充ツル爲一般會計ヨリ補足ヲ爲スコトヲ得

前項ノ補足金ハ毎年度經費中寄附財産ヲ以テ支辨スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 本令ニ依リ設置シタル學校ヲ廢止シタル場合ニ於テ寄附者又ハ其ノ相續人アルトキハ殘全財産ヲ之ニ還付スヘシ

第八條 前數條ノ規定ハ幼稚園圖書館及博物館ニ準用ス

附 則

第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 諸學校通則ハ之ヲ廢止ス但シ同令第一條ニ依リ設置シタル學校及書籍館ハ仍一箇年以内存續スルコトヲ得

第十一條 前條但書ニ依リ存續シタル學校及書籍館ハ其ノ寄附者ニ於テ前條但書ノ期間内ニ本令ノ規定ニ依リ更ニ出願シタルトキハ繼續ト看做スコトヲ得

第十四編

寄附財産ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル條

二百五十八

第十五編 軍 事

●海軍志願兵條例中改正ノ件 (三十二年十一月勅令第四百四十七號)

海軍志願兵條例中左ノ通改正ス

第五條中第一號ヲ左ノ如ク改ム

- 一 陸軍ノ豫備役及後備役ニ在ル者

第十五編

海軍志願兵條例中改正ノ件

二百五十九



第十六編 官制

●教育總監部條例中改正ノ件 (三十二年十月勅令第三百九十四號)

教育總監部條例中左ノ通改正ス

第二條中「陸軍教導團」ヲ削ル

第七條中「及教導團騎兵生徒隊」ヲ削ル

第八條中「及教導團砲兵生徒隊」ヲ削ル

第十條中「及教導團工兵生徒隊」ヲ削ル

第十一條中「及教導團輜重兵生徒隊」ヲ削ル

附 則

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

●農商務省官制中改正ノ件 (三十三年二月勅令第十八號)

農商務省官制中左ノ通改正ス

第十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十一條ノ二 商工局ニ保險事務官一人ヲ置ク

保險事務官ハ委任トス保險ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六編 教育總監部條例中改正ノ件 二百六十一

●嶺山監督署官制中改正ノ件 (三十三年二月勅令第二十六號)

嶺山監督署官制中左ノ通改正ス

第四條中「十二人」ヲ「專任十九人」ニ改ム

第五條中「六十八人」ヲ「專任百十人」ニ改ム

第六條中「十人」ヲ「專任十六人」ニ改ム

●北海道廳官制中改正 (三十三年三月勅令第四十九號)

北海道廳官制中左ノ通改正ス

第八條中「四百九十人」ヲ「四百九十二人」ニ改ム

第九條中「八十人」ヲ「八十三人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●印刷局官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第五十八號)

印刷局官制中左ノ通改正ス

第一條中第二號及第三號ヲ左ノ如ク改ム

一 官報其ノ他ノ印刷ニ關スル事項

三 印紙、郵便切手並諸證券類ノ製造ニ關スル事項

第二條中技師ノ下「專任三人」ヲ「專任六人」ニ屬ノ下「三十六人」ヲ「四十人」ニ技手ノ下「四十五人」ヲ「五十三人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●外務省官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第五十九號)

外務省官制中左ノ通改正ス

第十條 外務省ニ技手三人ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ電信及營繕事務ニ從事ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土木監督署官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第六十號)

土木監督署官制中左ノ通改正ス

第七條中「十七人」ヲ「二十一人」ニ「三人」ヲ「四人」ニ改ム

第八條中「二十五人」ヲ「二十八人」ニ改ム

第九條中「二十人」ヲ「二十一人」ニ改ム

附則

第十六編 印刷局官制中改正ノ件 外務省官制中改正ノ件

第十六編 土木監督署官制中改正ノ件 衛生試験所官制中改正ノ件 二百六十四  
本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●衛生試験所官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第六十二號)

衛生試験所官制中左ノ通改正ス

第五條中「六人」ヲ「九人」ニ改ム

第六條中「十六人」ヲ「二十三人」ニ改ム

第七條中「四人」ヲ「專任七人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●醫術開業試験委員官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第六十三號)

醫術開業試験委員官制中左ノ通改正ス

第十條第二項中「二千圓」ヲ「二千五百圓以内」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大藏省官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第六十五號)

大藏省官制中左ノ通改正ス

第八條 大藏省ニ鑑定官補二人技手四人ヲ置ク判任トス鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ鑑定ノ事務ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ建築又ハ電信ノ事務ニ從事ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●東京帝國大學官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第六十九號)

東京帝國大學官制中左ノ通改正ス

第七條中「九十一人」ヲ「百一人」ニ改ム

第九條中「百四人」ヲ「百十五人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●京都帝國大學官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第七十號)

京都帝國大學官制中左ノ通改正ス

第八條中「十七人」ヲ「二十四人」ニ改ム

第九條中「二十八人」ヲ「三十七人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六編 大藏省官制中改正ノ件 東京帝國大學官制中改正ノ件 二百六十五

第十六編 林區官制中改正ノ件 林野整理局官制中改正ノ件 二百六十六

●林區官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第七十一號)

林區署官制中左ノ通改正ス

第四條第五條及第七條中「各大林區署ヲ通シテ」ノ下ニ「專任」ヲ加フ

第六條中「二百五十人」ヲ「專任三百十三人」ニ改ム

第九條中「四百八十人」ヲ「六百二十六人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●林野整理局官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第七十四號)

林野整理局官制中左ノ通改正ス

第八條中「十六人」ヲ「三十二人」ニ改ム

第九條中「二百十八人」ヲ「三百二十六人」ニ改ム

●專賣局官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第七十六號)

專賣局官制中左ノ通改正ス

第三條中事務官ノ下「專任三十五人」ヲ「專任四十八人」ニ鑑定官ノ下「專任三人」ヲ「專任五人」ニ改

事務官補ヲ削ル

第五條中「又ハ事務官補」ヲ削ル  
第十一條中「又ハ事務官補」ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表畧)

●製鐵所官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第七十八號)

製鐵所官制中左ノ通改正ス

第二條中事務官ノ下「專任二人」ヲ「專任三人」ニ技師ノ下「專任十四人」ヲ「專任三十人」ニ書記ノ下

「專任三十八人」ヲ「專任五十七人」ニ技手ノ下「專任五十三人」ヲ「專任百七人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●文部省直轄諸學校官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第八十四號)

文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第二條中第五高等學校ノ下ニ「第六高等學校」ヲ加フ

第十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十八條ノ二 札幌農學校ニ農事部長、植物園長及博物館長ヲ置キ同校教官ノ中ヨリ文部大臣之

第十六編 製鐵所官制中改正ノ件 文部省直轄諸學校官制中改正 二百六十七

第十六編 鐵道國有調査會規則廢止ノ件 地方官官制中改正ノ件 二百六十八  
ヲ命ス  
附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●鐵道國有調査會規則廢止ノ件 (三十三年三月勅令第八十九號)

鐵道國有調査會規則ヲ廢止ス

●地方官官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第九十五號)

地方官官制中左ノ通改正ス

第一條中警部ノ次ニ「通譯」ヲ加フ

第四條中「七千人」ヲ「七千八百人」ニ改ム

第五條 技師、技手及通譯ハ府縣ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置ケコトヲ得  
通譯ハ判任トス

第二十八條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辭ニ從事ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●島地指定ニ關スル件 (三十三年三月勅令第九十四號)

第一條 地方官官制第四十九條ニ依リ左ノ島地ヲ指定ス

一 東京府大島

二 東京府八丈島 小島 青ヶ島 島島

第二條 大島ニ置ク島廳ヲ大島島廳ト稱シ八丈島小島青ヶ島島島ニ置ク島廳ヲ八丈島島廳ト稱ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●文部省官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第百六號)

文部省官制中左ノ通改正ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一 公立學校職員ニ關スル事項

二 教員免許ニ關スル事項

三 圖書ニ關スル事項

四 建築營繕ニ關スル事項

五 高等教育會議ニ關スル事項

六 學校衛生ニ關スル事項

七 博覽會ニ關スル事項

八 褒賞ニ關スル事項

第十六編 島地指定ニ關スル件 文部省官制中改正ノ件

第十六編 文部省官制中改正ノ件

第四條中「二局」ヲ「三局」ニ改メ普通學務局ノ次ニ「實業學務局」ヲ加フ

第五條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 帝國大學及高等學校ニ關スル事項
  - 二 專門學校ニ關スル事項
  - 三 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
  - 四 海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スル事項
  - 五 圖書館及博物館ニ關スル事項
  - 六 天文臺氣象臺及測候所ニ關スル事項
  - 七 學術技藝ノ獎勵及調査ニ關スル事項
  - 八 測地學委員及震災豫防調査會ニ關スル事項
  - 九 學士會院ニ關スル事項
  - 十 學術會ニ關スル事項
  - 十一 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
- 第六條中第一號ノ次ニ「二學中學校」ニ關スル事項「ヲ加ヘ二號以下順次繰下ク
- 第六條ノ二 實業學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 工業學校ニ關スル事項
  - 二 農業學校ニ關スル事項
  - 三 商業學校ニ關スル事項

- 四 公立及私立商船學校ニ關スル事項
- 五 徒弟學校及實業補習學校ニ關スル事項
- 六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
- 七 實業教育費國庫補助ニ關スル事項
- 八 實業學校教員ノ養成ニ關スル事項
- 第十條中「大臣次官又ハ各局長ノ命ヲ受ケ」ヲ削ル
- 第十一條中「六十人」ヲ「六十五人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●農商務省官制改正ノ件 (三十三年三月勅令第百九號)

農商務省官制中左ノ通改正ス

第十四條中「二十七人」ヲ「二十九人」ニ「四十一人」ヲ「四十八人」ニ改ム

第十五條中「百二十四人」「百二十八人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臨時秩祿處分調査局官制 (三十三年三月勅令第百二十四號)

第十六編 農商務省官制中改正ノ件

第十六編 臨時秩祿處分調査局官制 警察監獄學校官制中改正ノ件 二百七十二

第一條 臨時秩祿處分調査局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ臨時秩祿處分ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 臨時秩祿處分調査局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人 勅任

事務官 專任二人 奏任

屬 專任五十人 判任

第三條 局長ハ大藏省勅任官ヲシテ之ヲ兼テシム

第四條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第五條 事務官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第六條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

警察監獄學校官制中改正ノ件 (三十三年三月勅令第百十五號)

警察監獄學校官制中左ノ通改正ス

第一條中幹事ノ次ニ左ノ如ク加フ

通譯官 專任三人 奏任

第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二 通譯官ハ校長ノ指揮ヲ承ケ通譯及翻譯ノ事ヲ掌ル

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

教員檢定委員會官制 (三十三年三月勅令第百三十五號)

第一條 教員檢定委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ教員檢定ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條 教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一會長 一人

一常任委員

一主事 一人

一臨時委員

第三條 會長、常任委員、主事及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ文部省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

臨時委員ハ試験施行ノ際之ヲ命ス

第四條 會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ檢定ノ成績ヲ文部大臣ニ報告ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指命シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第五條 常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第六條 主事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル庶務ヲ整理ス

第七條 臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試験檢定ノ事ヲ掌ル

第十六編 教員檢定委員會官制

第十六編 教員檢定委員會官制

二百七十四

第八條 會長、常任委員、主事及臨時委員ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第九條 教員檢定委員會ニ書記三人ヲ置キ文部省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及主事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

書記ニハ一箇年五十圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

先

第十七編 試験、任用及分限

●文官高等試験細則中改正 (三十三年三月閣令第二號)

文官高等試験細則中左ノ通改正ス

第八條中「三人」ヲ「二人」ニ改ム

第十七編

文官高等試験細則中改正

二百七十五



### 第十八編 官等、俸給、旅費、恩給、扶助其他諸給與

● 判事檢事官等俸給令中改正 (三十二年十月勅令第四百十號)

判事檢事官等俸給令中左ノ通改正ス

第二條中「部長十五人」ヲ「部長十七人」ニ「判事八十五人」ヲ「判事九十九人」ニ「判事三百十五人」ヲ「判事三百九人」ニ「判事六百七十四人」ヲ「判事六百六十四人」ニ改ム

● 公立學校職員退隱料施行規程追加 (三十二年十一月勅令第四百二十三號)

明治三十二年勅令第二百一號第二條第三號中「島廳」ノ下ニ「並臺灣總督府縣廳辨務署」ヲ加フ

● 外國政府ノ招聘ニ應スル官吏ニ發スル件 (三十三年一月勅令第九號)

官吏許可ヲ受ケ外國政府ノ招聘ニ應シタル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得但シ招聘ニ應シタル日ヨリ解約歸朝ノ日ニ至ル迄ノ間俸給及旅費ヲ支給セス

● 官吏恩給法中改正法律 (三十三年二月法律第十號)

官吏恩給法中左ノ通改正ス

第九條第三號中「郡區書記」ヲ「郡區判任官」ニ改ム

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

第十八編

判事檢事官等俸給令中改正 公立學校職員退隱料施行 二百七十七  
規程追加 外國政府ノ招聘ニ應スル官吏ニ發スル件

第十八編

官吏恩給法中改正法律 官吏恩給法及官吏遺族扶助法  
補則中改正

二百七十八

法令ヲ以テ設立シタル議會ノ議員並市町村長助役收入役名譽職參事會員及東京市京都市大阪市  
北海道ノ區長ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受ケルノ資格ヲ失ハス

第十四條 第一項ヲ左ノ如ク改ム

郡區判任官ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並高等官試  
補判任官見習ハ恩給ヲ受ケルノ權ナキモノトス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●官吏遺族扶助法中改正法律 (三十三年二月法律第十一號)

官吏遺族扶助法中左ノ通改正ス

第三條第二項中「郡書記」ヲ「郡判任官」ニ改ム

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則中改正法律 (三十三年二月法律

第十二號)

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則中左ノ通改正ス

第五條中「郡區書記」ヲ「郡判任官」ニ改ム

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●傳染病豫防救治ニ従事スル者ノ手當金ニ關スル法律 (三十三年

三月法律第三十號)

第一條 判任以上ノ官吏ニ非ラスシテ傳染病ノ豫防救治ニ従事スル者公務ニ因リ病毒ニ感染シ又  
ハ之ニ原因シテ死亡シタルトキハ本法ノ規定ニ依リ手當金ヲ給ス

第二條 手當金ハ左ノ四種トス

- 一 療治料
- 二 給助料
- 三 弔祭料

四 遺族扶助料

第三條 病毒ニ感染シタル者ニハ療治料ヲ給ス感染者治癒シタルトキハ給助料ヲ給シ死亡シタル  
トキハ其ノ遺族ニ弔祭料及遺族扶助料ヲ給ス遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ弔祭料ヲ給ス

遺族扶助料ヲ受ケヘキ者ノ順位ハ官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第四條 遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル給料ノ金額ニ應シ別表ニ依リ一時之ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケ  
サル者ニ在リテハ別表ノ範圍内ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス

第五條 療治料ハ命令ノ定ムル區別ニ依リ一日三圓以内ヲ給ス

第十八編 傳染病豫防救治ニ従事スル者ノ手當金ニ關スル法律

二百七十九

給助料ハ遺族扶助料ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ給ス

甲祭料ハ月給一箇月分又ハ日給三十日分ニ相當スル金額ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテ

ハ本屬長官適宜之ヲ給ス

第六條 手當金ハ國庫支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ國庫ノ負擔トシ府縣市支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ府縣ノ負擔トス

第七條 地方長官ハ市區町村ニ指示シ本法ノ規定ニ準シ其ノ傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金支給ニ關スル規定ヲ設ケシムルコトヲ得

(別表) 署

●文部省直轄諸學校高等官官等俸給令中改正 (三十三年三月勅令第八十五號)

文部省直轄諸學校高等官官等俸給令第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八條 札幌農學校教官ニシテ同校農事部長植物園長、又ハ博物館長ヲ命セマレタル者ニハ年俸百五十圓以内ヲ加給スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●地方高等官俸給令 (三十三年三月勅令第九十三號)

第一條 地方高等官ノ年俸左表ノ如シ

官名	等級	一級	二級	三級	四級	五級	六級
知事		三千六百元	三千三百元	三千元			
書記官		二千圓	千八百圓	千六百元			
警部長		千六百元	千四百圓	千二百圓			
視學官		千六百元	千四百圓	千二百圓	千圓	九百元	八百圓
參事官		千四百圓	千二百圓	千圓	九百元	八百圓	
典獄		千二百圓	千圓	九百元	八百圓	七百圓	六百圓
島司		千二百圓	千圓	九百元	八百圓	七百圓	六百圓
郡長		千圓	九百元	八百圓	七百圓	六百圓	

第二條 東京府、京都府、大阪府、神奈川縣、兵庫縣、長崎縣、新潟縣、愛知縣、宮城縣、廣島縣、福岡縣及熊本縣ノ知事、書記官、警部長、視學官、參事官及典獄ハ別ニ左表ノ加俸ヲ受ケ

官名	府	縣	知事	書記官	警部長	視學官	參事官	典獄
東京府、京都府、大阪府、神奈川縣、兵庫縣、宮崎縣、新潟縣、愛知縣、宮城縣、廣島縣、福岡縣、熊本縣			四百圓	四百圓	四百圓	二百圓	二百圓	二百圓
			二百圓	二百圓	二百圓	百圓	百圓	百圓

第三條 內務大臣ニ於テ特ニ指定シタル地ノ島司及郡長ハ別ニ二百圓ノ加俸ヲ受ク

附則

第四條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第二百五十六號及明治二十九年勅令第十七號ハ之ヲ廢止ス

第五條 當分ノ内第二條ノ府縣以外ノ書記官警部長ノ年俸ハ第一條ノ規定ニ拘ラス書記官ニ在リテハ千五百圓警部長ニ在リテハ千圓ヲ給スルコトヲ得

第六條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸又ハ第五條ノ俸給額ヲ受ク但シ別ニ加俸ヲ受ケヘキ者ニ在リテハ現ニ受クル俸給額中本令ニ定ムルトコロニ相當スル部分ヲ以テ其ノ俸給ト看做シ其ノ他ノ部分ヲ以テ等級額ト看做ス

## 第十九編 榮典、懲戒、服務

### ●會計検査官懲戒法 (三十三年三月法律第二十一號)

#### 第一章 總則

第一條 會計検査官ノ懲戒ヲ受ケヘキ場合左ノ如シ

- 一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
  - 二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ
- 第二條 懲戒ハ懲戒裁判所ノ裁判ニ依リ之ヲ行フ
- 第三條 懲戒ハ左ノ如シ

一 譴責

二 減俸

三 免官

第四條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額ノ三分ノ一以内ヲ減ス

第五條 免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ判決ノ日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

第六條 刑事裁判手續中ハ同一事件ニ付被告ニ對シ懲戒裁判手續ヲ開始スルコトヲ得ス

懲戒裁判ノ言渡前同一事件ニ付被告ニ對シ刑事訴訟ノ始リタルトキハ其ノ事件ノ判決確定ニ至ルマテ懲戒裁判手續ヲ停止スヘシ

#### 第二章 懲戒裁判所

#### 第十九編 會計検査官懲戒法

第七條 懲戒裁判所ニ長官一人裁判官六人豫備裁判官六人ヲ置ク

長官ハ樞密顧問官ノ中ヨリ裁判官ノ中三人ハ大審院判事三人ハ會計検査院長ヲ加ヘ會計検査官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ニ補ス

豫備裁判官ハ前項ノ例ニ準シ之ニ補ス

第八條 長官裁判官及豫備裁判官ノ任期ハ三年トス但シ補闕ノ爲補職セラレタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第九條 懲戒裁判所ハ長官及裁判官ヲ併セ七人ノ列席合議ヲ以テ裁判ス

第十條 懲戒裁判所ニ於テハ長官ヲ以テ裁判長トシ長官事故アルトキハ上席裁判官ヲ以テ裁判長トス

裁判官事故アルトキハ其ノ同一官廳ヨリ出テタル豫備裁判官ノ中ヨリ長官其ノ代理ヲ命ス

第十一條 懲戒裁判所ノ裁判ノ評議ニ關シテハ裁判所構成法ノ規定ヲ準用ス

第十二條 懲戒裁判所ニ檢察官一人及豫備檢察官一人ヲ置ク

檢察官及豫備檢察官ハ大審院勅任檢事ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ニ補ス

第十三條 懲戒裁判ニ書記三人ヲ置ク  
書記ハ判任官ノ中ヨリ長官之ヲ命ス

第三章 裁判手續

第十四條 會計検査院長ハ會計検査院部長及検査官ニシテ懲戒ニ該ルヘキ所爲アリト認ムルトキハ懲戒裁判所檢察官ニ通告スヘシ

檢察官ハ事件ノ通告ヲ受ケタルトキ又ハ職權ヲ以テ懲戒裁判開始ノ申立ヲ爲スヘシ

第十五條 懲戒裁判所ハ檢察官ノ申立ニ因リ又ハ其ノ職權ヲ以テ懲戒裁判ヲ開始スヘキヤ否ヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ檢察官ノ意見ヲ徵スヘシ

第十六條 懲戒裁判開始シタルトキハ被告ハ其ノ裁判終結ニ至ル迄職務ニ就クコトヲ得ス

第十七條 開始決定ニハ懲戒スヘキ所爲及證據ヲ開示スヘシ

第十八條 開始決定ハ檢察官及被告ニ送達スヘシ

第十九條 懲戒裁判所ハ直ニ口頭辯論ノ期日ヲ定メ又ハ下調ニ付スルノ決定ヲ爲スヘシ

下調ニ付スルノ決定ハ檢察官及被告ニ送達スヘシ

第二十條 懲戒裁判所下調ニ付スルノ決定ヲ爲シタルトキハ裁判長ハ裁判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

受命裁判官ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ

受命裁判官ハ證人訊問其ノ他證據集取ヲ區裁判所ノ判事ニ囑託スルコトヲ得

受命裁判官又ハ受託判事ハ證據集取ニ付刑事訴訟ニ於ケル豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス但シ受命裁判官ハ罰金ヲ言渡シ又ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ス

第二十一條 被告下調ニ關シ呼出ヲ受ケタルトキハ代理人ヲシテ代理セシムルコトヲ得但シ受命裁判官又ハ受託判事ニ於テ本人ノ出頭ヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 受命裁判官下調ヲ終リタルトキハ調書其ノ他一切ノ證據ヲ懲戒裁判所ニ差出スヘシ

受託判事ハ囑託ヲ受ケタル職務ヲ終リタルトキハ調書其ノ他一切ノ書類ヲ受命裁判官ニ送致ス

ハシ

懲戒裁判所ハ下調ノ補充ヲ決定スルコトヲ得

第二十三條 懲戒裁判所下調ヲ充分ナリト認ムルトキハ檢察官ノ意見ヲ徵シ口頭辯論ノ期日ヲ定メ又ハ免訴ノ決定ヲ爲スヘシ

免訴ノ決定ハ檢察官及被告ニ送達スベシ

懲戒裁判所口頭辯論ノ期日ヲ定メタルトキハ之ヲ檢察官ニ通知シ被告ヲ呼出スヘシ

第二十四條 辯論及判決ノ言渡ハ之ヲ公開セス

第二十五條 口頭辯論ノ開始ハ裁判長之ヲ宣告ス

裁判長ハ先ツ被告ヲ審問シ次テ證據調ヲ爲シ檢察官及被告ヲシテ辯論ヲ爲サシメ被告ニ最終ノ發言ヲ許スヘシ

第二十六條 懲戒裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ書面審理ヲ爲スコトヲ得

懲戒裁判所ハ書面審理ヲ許シタル場合ト雖被告ヲシテ口頭辯論ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 懲戒裁判所ハ被告若ハ檢察官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更ニ證據ヲ提出セシムルコトヲ適當ナリトスルトキハ之ヲ爲證人ノ召喚其ノ他必要ナル命令ヲ發シ且口頭辯論ヲ延期スルコトヲ得但シ第二十條第四項但書ハ本條ニ又之ヲ準用ス

第二十八條 懲戒裁判所ニ於テ書面審理ニ基キ判決ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ判決前事件ニ關スル書類ヲ檢察官ニ送致シ其ノ意見ヲ徵スヘシ

第二十九條 懲戒裁判所ハ事件ノ辯論既ニ充分ナリトスルトキハ之ヲ終結シ直ニ判決シテ之ヲ言

渡スヘシ

被告辯論期日ニ出頭セスト雖直ニ判決ヲ爲シ之ヲ言渡スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ判決ヲ被告

ニ送達スヘシ

前二項ニ依リ直ニ判決スルコト能ハサルトキハ七日以内ニ判決ヲ爲シ之ヲ檢察官及被告ニ送達スヘシ

書面審理ニ基キ判決ヲ爲シタルトキハ之ヲ檢察官及被告ニ送達スヘシ

第三十條 裁判長裁判官ノ忌避、回避、證據集取ノ手續調書ノ調製及書類ノ送達ニ關シテハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

書類ノ送達ハ書留郵便又ハ懲戒裁判所ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テ郵便配達人及使丁ハ送達吏ト看做ス

第三十一條 證人鑑定人及通事ハ旅費日當ヲ要ムルコトヲ得其ノ金額ニ關シテハ刑法及刑法附則ヲ準用ス

第三十二條 懲戒裁判所判決ヲ爲シタルトキハ長官ヨリ直ニ其ノ旨ヲ内閣總理大臣會計検査院長ニ報告スヘシ

第四章 罰則

第三十三條 懲戒裁判所又ハ受命裁判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九編 會計検査官懲戒法 神官神職懲戒令

二百八十八

第三十四條 證人トシテ懲戒裁判所又ハ受命裁判官若ハ受託判事ヨリ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲懲戒裁判所又ハ受命裁判官若ハ受託判事ヨリ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ前項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ判決ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

附則

懲戒スヘキ所爲ハ本法施行前ニ關スルモノト雖本法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

神官神職懲戒令 (三十三年三月勅令第七十九號)

第一條 親任式ヲ以テ敘任スル官ヲ除クノ外神官ノ懲戒ハ本屬長官之ヲ行フ

但シ勅任官ノ免官ハ狀ヲ具シ内閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ狀ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

第二條 官國幣社宮司權官司ノ懲戒ハ内務大臣之ヲ行ヒ福宜以下及府社縣社以下神職ノ懲戒ハ地方長官之ヲ行フ但シ靖國神社神職ノ懲戒ハ陸軍大臣海軍大臣之ヲ行フ

第三條 神官神職ノ懲戒ニハ文官懲戒令第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

臺灣總督府法院職員官等俸給

(三十二年八月勅令第三百七十號)

及定員令

第一條 判官檢察官ノ官等ハ高等官一等乃至八等トシ其ノ年俸ハ別表ニ依ル

第二條 判官檢察官ノ各職ニ付其ノ專任定員及俸給ヲ定ムルコト左ノ如シ

覆審法院長一人 上級俸乃至下級俸

覆審法院部長一人 一級俸乃至七級俸

覆審法院判官六人 七級俸乃至十級俸

覆審法院檢察官長一人 中級俸乃至一級俸

覆審法院檢察官二人 七級俸乃至十級俸

地方法院長三人 一級俸乃至七級俸

地方法院判官二十一人 八級俸以下

地方法院檢察官長三人 二級俸乃至八級俸

地方法院檢察官八人 八級俸以下

第三條 書記ハ各院ヲ通シテ百人トス

第四條 通譯ハ各院ヲ通シテ五十人トス

奏任通譯ノ官等俸給ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五條 覆審法院判官ノ内二人ハ四級俸迄ヲ給スルコトヲ得

第六條 覆審法院檢察官ノ中一人ハ二級俸迄ヲ給スルコトヲ得

第七條 地方法院判官ノ中七人ハ七級俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 地方法院檢察官ノ中三人ハ七級俸ヲ給スルコトヲ得

第十九編 臺灣總督府法院職員官等俸給及定員令

二百八十九

第十九編

臺灣總督府法院職員官等俸給及定員令  
臺灣總督府稅關官制

二百九十八

第九條 覆審法院長タル判官ノ官等ハ當分ノ内高等官三等ト爲スコトヲ得此ノ場合ノ俸級ハ下級俸トス

第十條 本令ニ規定セサルモノハ臺灣總督府職員官等俸給令ニ依ル  
附則

第十一條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ交付セサル者ハ現ニ受ケル俸級額相當ノ俸級ヲ給セラルルモノトス

(別表) 略

臺灣總督府稅關官制 (三十二年八月勅令第三百七十一號)

第一條 臺灣總督府稅關ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 關稅、噸稅、出港稅及稅關諸收入ニ關スル事項
- 二 保稅倉庫其ノ他ノ倉庫ニ關スル事項
- 三 船舶及貨物ノ取締ニ關スル事項
- 四 關稅規則及噸稅規則犯則者ノ處分ニ關スル事項
- 五 關稅道路ノ取締ニ關スル事項

第二條 左ノ四港ニ稅關ヲ置ク

淡水  
安平

基隆

打狗

第三條 稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス

淡水稅關長ハ基隆稅關長安平稅關長ハ打狗稅關長ヲ兼ヌ

第四條 稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

鑑定官	奏任	專任	二人
屬	判任	專任	四十八人
監視	判任	專任	二十四人
鑑定官補	判任	專任	十一人
監吏	判任	專任	百三十四人

第五條 稅關長ハ臺灣總督ノ指揮ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第六條 鑑定官ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ關スル事務ヲ掌理ス

第七條 屬ハ稅關出張所長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 監視ハ稅關監視部長若ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス

分ニ關スル事務ニ從事ス

第九條 鑑定官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物ノ検査鑑定ニ從事ス

第十條 監吏ハ稅關監視署長タル者ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ニ從事ス



第十九編 臺灣總督府稅關官制

第十一條 稅關ニ稅關監視部ヲ置ク

監視部ニ部長一人ヲ置ク監視ヲ以テ之ニ充ツ

稅關監視部長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十二條 稅關管轄區域内必要ナル場所ニ稅關出張所及稅關監視署ヲ置クコトヲ得

稅關出張所ノ名稱位置及管轄區域並稅關監視署ノ名稱位置ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十三條 稅關出張所ハ所長一人ヲ置キ屬ヲ以テ事務ニ充ツ

第十四條 稅關監視署ニ署長一人ヲ置ク監視若ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條 稅關出張所長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ其ノ管轄内ノ稅關事務ヲ掌理ス

第十六條 稅關監視署長ハ稅關長ノ指揮ヲ承ケ關稅警察及犯則處分ニ關スル事務ヲ掌理ス

附則

第十七條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十八條 本令施行ノ際監吏監吏補ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ監吏ハ監視ニ監吏

補ハ監吏ニ任セラレタルモノトス

第二十編 臺灣法令

臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制中改正

(三十三年二月勅令第二十二號)

臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制中左ノ通改正ス

第五條中「奏任二人」ヲ「奏任三人」ニ改ム

第六條第一項中「舍監」ノ下ニ「專任」ヲ加ヘ第二項ヲ削ル

第七條中「三人」ヲ「四人」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府地方官官制中改正 (三十三年二月勅令第三十二號)

臺灣總督府地方官官制中左ノ通改正ス

第三十五條中「又ハ列任」ヲ削ル

臺灣總督府官制中改正 (三十三年二月勅令第三十六號)

臺灣總督府官制中左ノ通改正ス

第十八條中「技師」ノ次ニ「翻譯官」ヲ加フ

第二十條第一項中「專任二人」ヲ「專任四人」ニ改ム

第二十編

臺灣總督府警察官及司獄官練習所官制中改正  
臺灣總督府地方官官制中改正

第二十編

外國人ノ土地取得ニ關スル律令 土地貸借ノ期間ニ  
關スル律令 臺灣新聞紙條例

二百九十四

第二十二條ノ二翻譯官ハ專任五人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ翻譯及舊價ノ調査ニ關スル事ヲ掌ル

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●外國人ノ土地取得ニ關スル律令 (三十三年二月律令第一號)

外國人ハ土地ヲ取得スルコトヲ得ス但外國人カ現ニ所有スル土地ハ此限ニアラス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●土地貸借ノ期間ニ關スル律令 (三十三年二月律令第二號)

土地貸借ノ期間ハ貸借ハ二十年其他ノモノハ百年ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ前項ノ期間ニ短縮ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣新聞紙條例 (三十三年二月律令第三號)

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ管轄地方官廳ヲ經由シ臺灣總督府ニ願出  
テ許可ヲ受クヘシ

一 題號記載ノ種類及發行ノ時期

二 發行所並發行人ノ住所氏名年齢

許可ヲ得タル後前項記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ更ニ前項  
ニ依リ願出テ許可ヲ受クヘシ但發行所並發行人ノ住所氏名ノ變更ニ係ルトキハ其許可ヲ得ル  
マテハ假發行所又ハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

公權剝奪又ハ公權停止中ノ者未成年者及本島ニ住所ヲ有セサル者ハ發行人トナルコトヲ得ス

第二條 發行ノ時期ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ臺灣總督ハ發行ノ許可ヲ取消スコトヲ  
得

第三條 發行人ハ保證トシテ金千圓ヲ管轄地方官廳ニ納付スヘシ

保證金ニ關スル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四條 新聞紙ハ每號ニ發行人ノ氏名及發行所ヲ記載スヘシ

何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ發行人ト共ニ其責ニ

當ラシム

第五條 新聞紙ハ其ノ發行毎ニ先ツ臺灣總督府ニ二部管轄地方官廳及管轄地方法院檢察局ニ各一  
部ヲ納ムヘシ

第六條 左ノ事項ハ新聞紙ニ記載スルコトヲ得ス

一 公判ニ附セサル前重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項並傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項

第二十編

臺灣新聞紙條例

二百九十五

- 二 刑事被告人又ハ犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤シ若ハ犯罪ヲ曲庇スル事項
  - 三 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書又ハ官廳ノ議事ニシテ許可ヲ得サル事項
  - 四 傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事
  - 五 外務大臣陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ特ニ記載ヲ禁シタル外交又ハ軍事ニ關スル事項
- 第七條 臺灣總督ハ特ニ命令ヲ發シテ外交又ハ軍事其他祕密ヲ要スル事項ニ關スル記載ヲ禁スルコトヲ得

第八條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付本人又ハ關係者ヨリ取消又ハ正誤ヲ求メ又ハ取消書正誤書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其次回又ハ第三回發行ノ紙上ニ於テ其求ニ應スヘシ但取消書正誤書ノ字數原文ノ二倍ニ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録シタル事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ取消若ハ正誤ヲ掲載シタルトキハ速ニ取消又ハ正誤スヘシ

取消正誤ハ原文ト同號ノ活字ヲ用井同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ

第九條 左ノ各號ニ該當シタリト認ムル新聞紙ハ臺灣總督ニ於テ其發賣頒布ヲ禁止シ仍發行ノ停止ヲ命シ又ハ其許可ヲ取消スコトヲ得

一 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスル事項

二 第六條第七條ノ禁令ヲ犯シタルモノ

第十條 新聞紙ニ記載シタル事項治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ臺灣總督

ニ於テ其發賣頒布ヲ禁止シ文書若ハ口達ヲ以テ發行人ニ戒告ヲ爲スヘシ戒告ヲ爲スモ發行人ニ於テ尙改メサルトキハ其發行ノ停止ヲ命シ又ハ其許可ヲ取消スコトヲ得

保證金ノ闕額ヲ完納セスシテ發行シタルトキ亦同シ

第十一條 一人又ハ一社ニシテ數箇ノ新聞紙ヲ發行スル者一箇ノ新聞紙ヲ停止セラレタルトキハ其停止中他ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ス

第十二條 臺灣以外ノ帝國領土内又ハ外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ第六條第七條第九條第一號第十條第一項ニ該當スルモノト認ムルトキハ臺灣總督ハ其發賣頒布ヲ禁シ之ヲ差押フルコトヲ得

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付誹毀ノ告訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除ク外法院ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十四條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ訴訟費用及罰金ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ發行人ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ一週日以内ニ其闕額ヲ完納スヘシ

第十五條 第一條第四條第一項第五條第八條ニ違背シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第十條ニ依リ戒告ヲ爲スモ尙改メスシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂セントスル事項ヲ記載シタル者又ハ第六條第七條ノ禁令ヲ犯シタル者又ハ第十二條ノ禁止ヲ犯シタル者ハ一月

以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變壞シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ事項ヲ記載シタルハ者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十八條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用非ス

第十九條 此條例ニ關スル告訴ノ時效ハ六箇月トス

第二十條 定期ニ發行スル雜誌通信ノ類ハ其學術技藝統計官令又ハ物價報告等ニ關スルモノヲ除ク外此條例ニ依ル

附則

第二十一條 此條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二十二條 從來發行スル新聞紙及第二十條ニ掲クル雜誌通信ノ發行人ハ此條例施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ此條例ニ定ムル手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 學術技藝統計官令又ハ物價報告等ニ關スル通信雜誌ノ類其他新聞紙ニアラサル文書圖畫又ハ定期ニ發行セサル文書圖畫ノ出版ハ當分ノ內臺灣總督定ムル所ノ規定ニ依ル

臺灣辯護士規則 (三十三年二月律令第五號)

第一條 辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ臺灣總督府法院ノ命令ニ從ヒ臺灣總督府法院ニ於テ法律律令ニ定メタル職務ヲ行フモノトス

第二條 辯護士ニハ明治二十六年法律第七號辯護士法ノ規定ヲ準用ス

第三條 現在ノ訴訟代人ハ當分ノ內其職務ヲ行フコトヲ得

附則

第四條 此規則ハ明治三十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣ニ在勤スル官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律 (三十三年三月)

法律第七十五號

第一條 臺灣ニ在勤スル文官判任以上ノ者ニシテ三箇年以上引續キ在職シタル者ニハ官吏恩給法並遺族扶助法ノ在官年數計算ニ於テ其ノ在職一箇月ニ對シ半箇月ヲ加算ス但シ從軍年ノ加算アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ加算シタル年月數ハ軍人恩給法ニ於テ文官服務中ノ日數中ニ算入ス

第一項ノ加算ハ臺灣ニ到着シタル日ニ始マル

第二條 臺灣ニ在勤スル文官判任以上ノ者ニシテ三箇年以上引續キ在職シタル者臺灣ニ於テ風土病又ハ流行病ニ罹リ官吏恩給法第三條第二號ニ準スヘキ者ニハ恩給及增加恩給ヲ給ス

前項ノ疾病ニ罹リ之カ爲退官シタル後重症ニ趨キタルトキハ官吏恩給法第六條ノ規定ニ準シ相當ノ恩給ヲ給ス

第三條 臺灣ニ在勤スル文官判任以上ノ者臺灣ニ於テ風土病又ハ流行病ニ罹リ在官中死去シタルトキ又ハ之カ爲退官シタル後其ノ疾病ノ爲死去シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ官吏遺族扶助法ノ規定ニ依リ其ノ遺族ニ扶助料ヲ給ス

第二十編

臺灣ニ於テ地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律

三百

一 第一條ノ在職三箇年未滿ナルトキハ十五箇年在官シタル者ト同視シ其ノ受クヘキ恩給年額ノ三分ノ一

二 第一條ノ在職三箇年以上ナルトキハ其ノ受クヘキ恩給年額ノ三分ノ二

第四條 前二條ノ風土病及流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第五條 本法ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ臺灣ニ在勤スル者ニ關シテハ本法施行前ヨリノ在職年月數ニモ之ヲ適用ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣ニ於テ地方稅支辨ノ俸ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員ノ退

隱料及遺族扶助料ニ關スル法律 (三十三年三月法律第七十七號)

第一條 臺灣ニ在勤スル地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員及其ノ遺族ハ本法ノ規定ニ依リ退隱料及遺族扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 明治二十三年法律第九十一號及之ニ基キテ發シタル勅令ハ前條ノ學校職員及其ノ遺族ニ之ヲ適用ス但シ同法中府縣知事ノ職務ハ縣知事又ハ廳長文部大臣ノ職務ハ臺灣總督之ヲ行ヒ同法第十條中府縣郡市町村ノ負擔トナルヘキ經費ハ地方稅ヲ以テ之ヲ支辨ス

第三條 第一條ノ學校職員ノ臺灣ニ於ケル在職年數ハ臺灣ニ在勤スル文官判任以上ノ者ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クル者ニ準シテ之ヲ計算ス第一條ノ學校職員臺灣ニ於テ風土病又ハ流行病ニ罹

リタル場合ニ關シテハ臺灣ニ在勤スル文官判任以上ノ者ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クル者ニ準シテ退隱料ヲ給ス

第一條ノ學校職員前項ニ該當シ之カ爲死亡シタル者ノ遺族ハ臺灣ニ在勤スル文官判任以上ノ者ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クル者ノ遺族ニ準シ扶助料ヲ給ス

第四條 明治二十九年法律第十三號及之ニ基ツキテ發シタル勅令ハ第一條ノ學校職員ニ關シテ之ヲ適用ス

第五條 臺灣人ニシテ地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員及其ノ遺族ハ第二條及

第四條ノ規定ニ依リ退隱料及遺族扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十編

臺灣ニ於テ地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル文官判任以上ノ學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律

三百二

第二十編 臺灣ニ於テ地方稅支辨ノ俸給ヲ受ケル文官判任以上ノ學校職員ノ退職料及遺族扶助料ニ關スル法律

三百二

# 日本法典增補新法令終

明治卅三年六月三十日印刷  
明治卅三年七月二日發行

(新法令)

編輯者 法典研究會

發行者 松宮次郎

東京市神田裏神保町六番地

印刷者 水谷景長

發行所 東京神田裏神保町 濟美館

大 賣 捌 所

東京神田表神保町

八尾書店

東京神田一橋通町

有斐閣

東京神田裏神保町

明法堂

東京神田表神保町

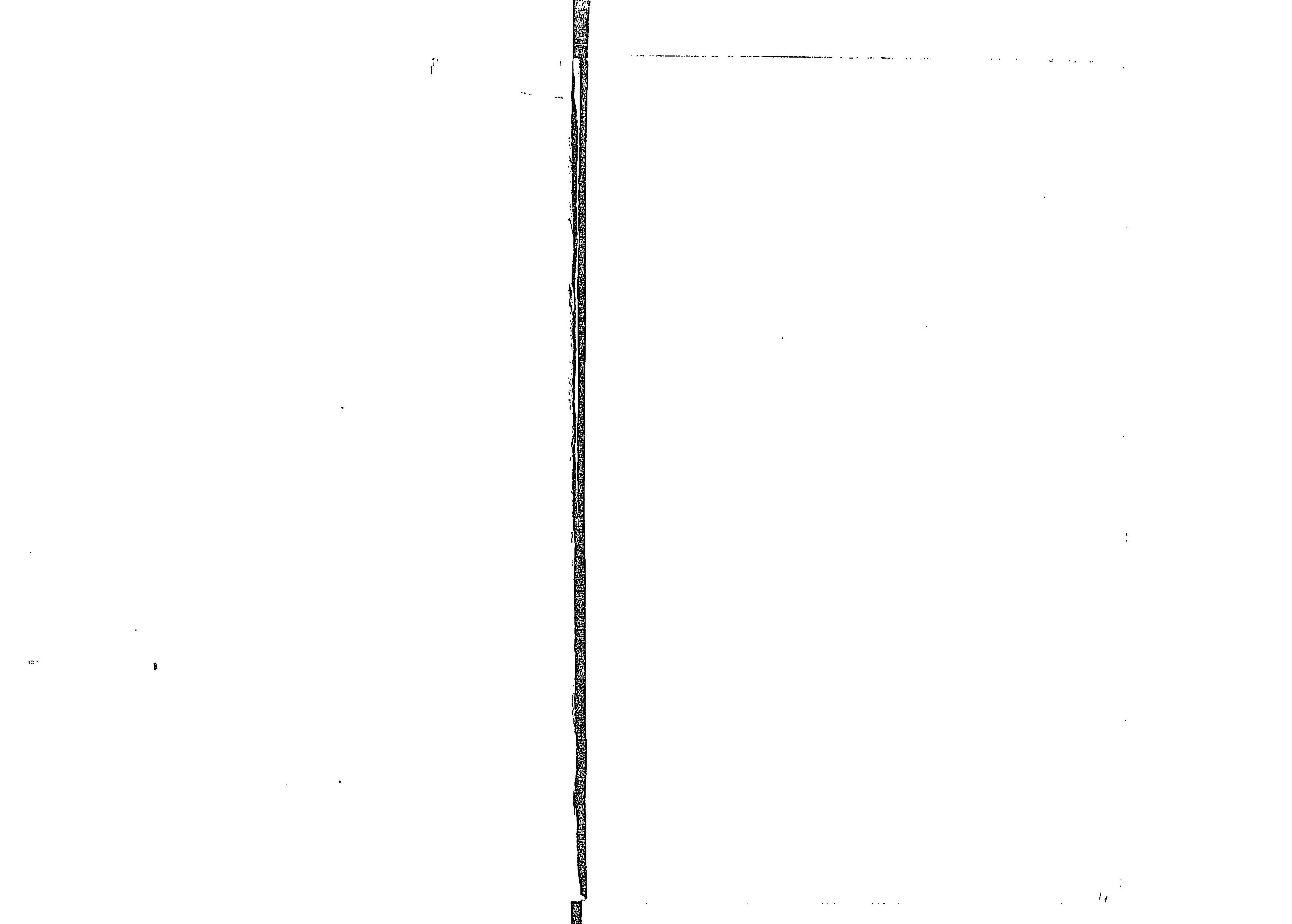
榊原書店

大坂東區備後町

吉岡本店

神戸元町五丁目

吉岡支店





清浦司法大臣題辭 南部大審院長序文  
法典研究會編纂 東京 濟美館發兌  
總クローズ最美製 紙數大凡千三百頁



改訂  
**日本六法**  
增訂  
三版  
(正價金八拾錢)

右ハ憲法皇室典範議院法選舉法法例刑法民法國籍法戶籍法不動産登記法商法  
保險業法各銀行條例及民事訴訟法刑事訴訟法裁判所構成法監獄則ヲ始メ以上  
各法ニ關スル諸法規百數十件ヲ網羅シタルモノニシテ明治卅三年四月ノ現行  
ニ依リ改廢ヲ訂シ沿革ヲ註シタル輕便優美ノ書ナリ

東京 濟美館發行

新法令

日本法典附錄

031080-000-8

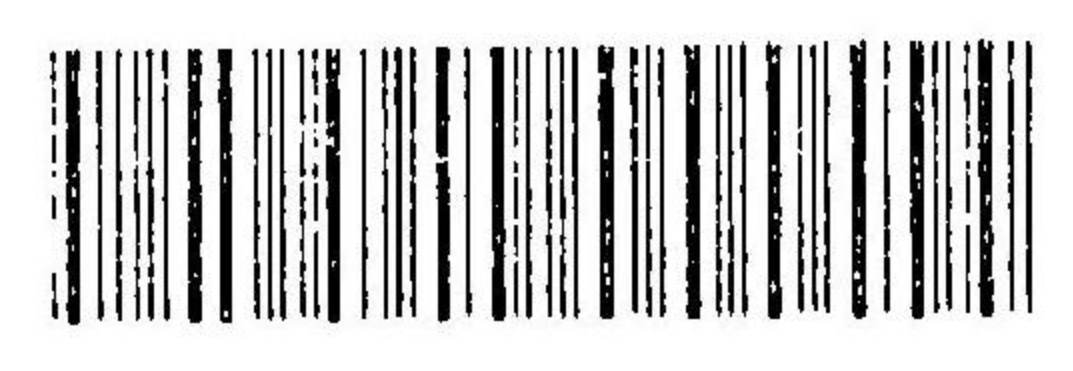
CZ-5-0206

日本法典增補(新法令)

法典研究会/編

M33

BBC-0694



【 17 層 】